

回答者	質問	回答
水越	ネパールにわたる前は何か日本でコミュニティ開発に携わるような活動などはされていたのですか？	特に行っていませんでした。
水越	なぜ障がい者の方々に絞ったんですか？	女性や子どもに対する支援はネパールでもかなり行われているのですが（障がい者に対する物的支援も同様です）、障がい者の雇用や就労支援については課題が山積していると感じたからです。
水越	障がい者や高齢者体験キット？は日本から持参されたのでしょうか。行く前から準備・計画をしておきましたか？それともひらめかれて、現地調達されたのでしょうか？	派遣前はこのような活動を想定していなかったことでキットは持参しませんでした。また準備や計画もしていませんでした。現地で学校を訪問する機会も多くあり、子どもたちの授業の様子などを見て、体験して学ばせることの必要性を感じ、はじめました。アイマスクや耳栓、おもり（石などで代用）は現地でも調達可能でしたが、日本から協力してくださる方に出会えたので協力を依頼しました。
水越	現地で活動する際に、現地のニーズ調査はどのように行われましたでしょうか？特に紙袋を作るに至った経緯を教えてください。	はじめにターゲットを外国人観光客に絞り、外国人がよく集まる場所で行うことをしました。お店の人に、それまでに活動先の障がい者が作っていた商品（封筒やろうそく）の写真を見せたところ、あるお店の方からネパール語の新聞紙を使った袋が欲しいので作ってみてもらえないかと言われたのがきっかけです。そのお店で新聞紙の袋を見た別のお店のオーナーの方から大きめで少し厚めの袋が欲しいとさらにオーダーをいただきました。
水越	高校教員をされていたとのことですが、現職教員特別参加制度を利用しましたか。また、私は中学校教員なのですが、自治体では自己啓発休業しか使えず、応募を迷っているのですが、アドバイスがありましたら教えてください。	私は現職教員特別参加制度を利用させていただきました。日本にいたら経験できなかったこと、感じるできなかったこと、気づけなかったこと、出会うこともなかった人など協力隊を通して多くのことが得られたので参加してよかったと思っています。
水越	女性として途上国で生活することに不安はありませんでしたか。	ライフラインや健康・安全に関する不安はありましたが、現地には健康や安全面をサポートして下さるJICAスタッフの方がいるのでそのような不安はすぐに解消されていきました。
水越	現地の方の仕事に対する姿勢等、日本と違うと思います。戸惑われたこと、難しかったことはありますか？	ネパール人からは日本人は勤勉な人が多いとよく言われました。一概には言えませんが、給与をもらって仕事をする立場の現地の人たちは日本人とは真逆な人が多いかもしれません。
水越	現地のJICA担当・健康管理委員の方というのは日本人の方でしょうか？	JICAネパール事務所には日本人の健康管理員の方が常駐していらっしゃいました。
水越	新しいプロジェクト、新しいことを現地の職場で進める際に、大切にしていたことは何ですか？	まずはカウンターパート（配属先の同僚）に相談しました。私の場合、新聞紙の袋は学校の先生にも講習を開き、作り方をマスターしてもらいました（帰国後も継続できるように）。新聞紙を調達する際も、先生に同行してもらい、次からは私が行かなくてもいいようにしていました。常に自分なき後のことを想定して動くようにしていました。障がい者や高齢者の体験活動も事前に校長先生や先生方に意図などを説明するための簡単なプレゼンをさせていただいてから実施していました。
水越	現地でたくさんの取り組みをなされていますが、何をするか派遣前に考えていたのですか？それとも現地で考えられたのでしょうか？	要請内容に基づき、派遣前にこんな活動をしたいというはある程度考えていましたが、現地に赴き、現地の状況を実際に自分の目で見て、感じていく中で軌道修正していきました。
水越	派遣についてご家族は反対されませんでしたか？また、ご家族は派遣中の間どのようにすごされていましたか？	以前から参加したい旨を公言していたので反対はありませんでした。現地の住居にはWi-Fi環境があったため、活動や生活の様子が分かる写真などを定期的に送っていたため、特に心配はなかったようです。
水越	コミュニティ開発の派遣前訓練では、語学以外にどのような訓練がありましたか？	安全や健康面に関する講習を受講したり、グループワークなども行われました。私のときにはコミュニティ開発隊員のみで行う技術補完研修というものもありました。
水越	応募前に語学資格など特別な準備をしたことはありましたか？	英語を少し勉強しました。
水越	日本にいたときも障がい者の支援等に携わっていたのですか？	全く携っていませんでした。
水越	応募の際、家族は快く賛成してくれましたか？	以前から参加したい旨を公言していたので賛成してくれました。現地の住居にはWi-Fi環境があったため、活動や生活の様子が分かる写真などを定期的に送っていたため、特に心配はなかったようです。
水越	活動は高校でどのように活きましたか？	活動が直接生かされているわけではありませんが、ネパールで自分が外国人の立場になったことで、勤務校にいる外国にルーツをもつ生徒たちの気持ちがいっそう理解できるようになりました。ネパール人の生徒もいるため、日本語で理解できないところはネパール語で伝えたりもしています。
水越	隊員を志望された理由を聞きたいです。	旅行ではなく、生活をしながらボランティア活動をしたかったからです。現職教員特別参加制度の存在も大きかったです。
水越	言語はどうされていたのですか？どのレベル必要なのでしょうか？	ネパール語は派遣前に訓練所で学習しました。現地に着いてからも約1か月語学訓練がありました。あとは生活や活動しながら使っていて覚えていきました。

水越	仕事以外の時間は何をされてましたか？	家の近くにある日本語学校へ行き日本語を教えてあげたり、学校が休みの日（土曜日）は首都にある補習授業校で算数と国語を日本語で教えるもしていました。ネパールのお祭りにもたくさん誘っていただいたので、異文化を楽しむこともできました。
水越	辛かったこと大変だったことはありますか？どう乗り越えましたか？	障がいの方が作れそうで商品になるものを生み出すのが大変でした。失敗に終わったものもたくさんあります。また、一定の品質を保つことに苦労しました。そういう観点が無い現地の人たちに根付かせるのが大変でした（これくらいなら売れるだろう、大丈夫だろうという考えが強かったです）。
水越	今春、大学を卒業してホテルに勤めます。3～5年経験を積んで観光の職種に応募したいのですが、応募前に準備・勉強すべきことがあれば教えていただけますでしょうか。	興味があるなし問わず、経験できることは何でもやってみるといいと思います。活動はもちろんですが、活動以外のところでその経験が生きることもあると思います。
水越	自分の活動によって何か「現地の状況が変わった」「現地の人の意識が変わった」と感じていることはありますか。	活動先には国内外を問わず来訪者があり、障がい者の方々が自分が作った商品を誇らしげに見せている姿を見たときに働きがいや生きがいを持つと人はこんなにも輝くんだなと思いました。
水越	何か資格を持っていたのでしょうか？	教員免許以外には特筆すべき資格はありません。
山本	新しいプロジェクト、新しいことを現地の職場で進める際に、大切にしていたことは何ですか？	自分で勝手に判断して、行動しないことです。カウンターパート（お世話をしてくれる配属先の同僚）や同僚にも意見を聞き、そしてよく相談することです。現地の方の意見を聞くことはとても大切だと思います。
山本	現地でたくさんの方の取り組みをなされていますが、何をするか派遣前に考えていたのですか？それとも現地で考えられたのでしょうか？	ほとんどのことは現地で考えました。配属されてからの約3か月で、2年間の活動をざっと考えました。しかし現地の生活に慣れ始めると、新たにやりたいことが出てきたので、それにもチャレンジしました。
山本	派遣についてご家族は反対されませんでしたか？また、ご家族は派遣中の方のようにすごされてましたか？	協力隊に行きたいことは昔から話していたので、特に反対はありませんでした。派遣中は、家族に定期的にメールで活動報告をしました。少しでも安心してほしかったので、文面だけのあく写真も多く送っていました。
山本	応募前に語学資格など特別な準備をしたことはありましたか？	具体的に協力隊を目指すことを決めた後から、定期的にTOEICを受験していました。
山本	見つけられた課題は、現地の方も同じように課題だと感じていたのでしょうか。現地の方々にも問題意識や解決意欲はあったのでしょうか？現地の方との問題意識や解決意欲のギャップはありましたか？	課題（PCの管理・整備ができていないこと、停電が多いこと）は、同僚も問題だと感じていたようでした。しかし実際にそれを改善しよう、なんとかしようという姿勢はあまりありませんでした。同僚との解決意欲のギャップはともあったと思います。同僚の解決意欲を高めるために、「この大学のPC室はこんなに整理整頓されていてきれいだよ（写真を見せながら）」のように何かと比較して、今の状況を解決するといふことがあるよという思いを伝え続けました。
山本	隊員を志望された理由を聞きたいです。	協力隊に志望したきっかけは高校の先生が協力隊OBの方で、その先生の話を聞き「私も海外でボランティアをしたい」と思い、協力隊を目指すことに決めました。
山本	PCインストラクターの事業はレベル別で講義していくのでしょうか？それとも同じクラス（ビギナーであればビギナー）のクラスを担当していくのでしょうか。	私が担当したクラスは、レベルは関係ありませんでした。そのためクラスの中によくパソコンを使える生徒、また全くパソコンを使ったことがない生徒があり、レベルの差はとても大きかったです。私の授業はどちらかというと、ビギナー向けの授業だったので、ある程度使える生徒には退屈な授業だったと思います。しかしある程度できる生徒を、チューター（講師補佐）役として手伝ってもらいました。
山本	生活面で大変だったことはありますか？	現地では手に入る食材が少なく、食べ物に飽きてしまいました。ですが手に入る食材で自分自身でアレンジ料理を作ってみたり、協力隊同士でレシピを交換しあったり、日本から味付けを送ってもらったりして、工夫して楽しみました。
山本	一般企業の人事担当として働いており、資格や技術をもっていませんが応募可能な分野はどれになりますか。	PCで作業をされることが多いようでしたら、PCインストラクターでの応募は可能だと思います。私は大学での事務職の経験を活かして、PCインストラクターを選びました。もし興味がありましたら、是非JICAのHPで要請を見てみてください。
山本	言語はどうされていたのですか？どのレベル必要なのでしょうか？	言語（ガーナは英語）は、とにかく現地で努力しました。間違えてもいのでとにかく頑張って話してみる。聞き取れなかったら、聞き取れるまで何度も聞き返していました。最初の3か月間は全然アフリカ英語が聞き取れず苦労しましたが、1年後にはだいぶ聞き取れるようになりました。
山本	大学事務の仕事をしていたとのことですが、何かPCの資格をお持ちだったのでしょうか。	大学生の時に、MOS資格（WordとExcel）を取りました。仕事を始めてからは、特に資格は取っていません。
山本	仕事以外の時間は何をされてましたか？	週末は、映画を見たり、授業の準備をしたりと家でゆっくり過ごしていました。配属先が長期休みの時期には、同期隊員と国内を旅行していました。旅行はリフレッシュできるので、とても良かったです。

山本	辛かったこと大変だったことはありますか？どう乗り越えましたか？	辛かったことは、せっかく企画したクラブ活動に1名しか学生が来なかったことです。予定では40名ほど来る予定だったので、とてもショックでした。しかし「39名も欠席した」という考え方を、「1名は来てくれた」とポジティブにとらえ、その1名の満足度を上げるために頑張ろうと考えなおしました。そうすると心が楽になりました。
山本	PCスキルは派遣前にどれくらいあったでしょうか。資格はお持ちでしょうか	MicrosoftのWordとExcelは問題なく使える程度です。資格は、MOS資格（WordとExcel）を持っていました。PowerPointは苦手だったのですが、自分で調べたり、他のPC隊員に教えてもらったりしました。
山本	自分の活動によって何か「現地の状況が変わった」「現地の人の意識が変わった」と感じていることはありますか。	パソコンの授業の中で、日本文化も少し教えていました。次第に日本に興味を持ってくれる学生が増え、もっと日本のことを教えて欲しいと言われるようになりました。また私が教えた日本語（ありがとう、おはよう、いいね等）を授業外でも、学生同士で使っていてすごく嬉しかったです。
日本語教育/ ブラジル	JICA海外協力隊の経験は、日本に戻ってから現職や転職にどのような影響がありましたか？良い影響、大変だったことなどあれば教えてください。	もともと働いていた日本語学校から声をかけていただき、復職することができました。任国では自分もポルトガル語の学習者だったため、外国人の気持ちで2年間過ごしたことは今また日本で日本語を教えているときに、とても役に立っていると思います。
日本語教育/ ブラジル	現地の方の仕事に対する姿勢等、日本と違うと思います。戸惑われたこと、難しかったことはありますか？	私の場合は現地の方々がとても積極的に仕事をする方ばかりだったので、現地の人がやる気がない、みたいな印象はまったくありませんでした。ただ、任国では終業時間がたらみんな残業をせずに帰っていました。なので自分もただだと遅くまで仕事をせず、時間内で終わらせられるように心がけました。
日本語教育/ ブラジル	新しいプロジェクト、新しいことを現地の職場で進める際に、大切にしていたことは何ですか？	自分の意見を押しつけないように注意していました。提案はするけれど、それが断られても気にしないようにしていました。現地の人にも、それまで長年現地で日本語教育を続けてきたノウハウや誇りがあります。私が現地の人から学ぶべきこともたくさんありました。現地の人のやり方、考え方をリスペクトし、その上で自分ができることを考え、提案などをするように心がけていました。
日本語教育/ ブラジル	現地でたくさんのお取り組みをなされていますが、何をするか派遣前に考えていたのですか？それとも現地で考えられたのでしょうか？	研修プログラムの中に、現地でするようなことをやるかを計画するものがありました。そのときに考えて実行したこともありますし、現地の状況を観察していく上で思いついたこともたくさんあります。
日本語教育/ ブラジル	派遣についてご家族は反対されませんでしたか？また、ご家族は派遣中の方のようにすごされていましたか？	家族の反対などは特ありませんでした。任国ではインターネットが普通に使えたので、LINEなどの無料通話でいつでも連絡ができる状態にありました。
日本語教育/ ブラジル	ブラジルはどのような生活でしたか。お手洗い、食生活など教えてください。	食生活については、町の規模にもよりますが、日本の調味料や野菜がかなり手に入ります。日系人の方が現地で維持している日本文化があるからです。私の町では魚屋で刺身を作ってもらうこともできました。サンパウロにリベルダーヂという東洋人街があり、そこでたいていの日本の食材を手に入れることができます。ダイソーもあります。お手洗いはどこも水洗式が普及していますが、トイレトペーパーは便器に流さず、脇に置いてあるゴミ箱に捨てるルールでした。
日本語教育/ ブラジル	現地の学校で日本語を教えていた際の日本語のレベルや学習者の年齢層について教えてください。	学習者は6歳から78歳まで幅広いです。レベルは初級がほとんどですが、年配の生徒の方の中には日本語が堪能な方もいらっしゃいます。
日本語教育/ ブラジル	隊員を志望された理由を聞きたいです。	海外で活動することに興味があり、また、ブラジルの音楽などの文化が好きだったため、ブラジルの日系社会青年海外協力隊を志望しました。
日本語教育/ ブラジル	言語はどうされていたのですか？どのレベル必要なのでしょうか？	言語は合格後、70日間の派遣前訓練で毎日勉強しました。
日本語教育/ ブラジル	仕事以外の時間は何をされましたか？	日本の料理を作ったり、現地の方の家に招いていただいたり、友達と会ったりしていました。また現地日系人のイベント（盆踊り、運動会など）が多くあり、それに参加したりすることも多かったです。インターネットも普及しているので、日本のYouTubeやSNSなどもよく見ていました。
日本語教育/ ブラジル	ブラジルに興味があったということですが、ブラジルあつての仕事選びということでしょうか。	自分が行きたい国から要請を選ぶのではなく、どの国で合格したとしてもそこでもできるだけのことをする、という気持ちの持ち方でした方がいいと思います。もし行きたい国があるのなら、募集要項を見て現地で何が必要とされているかを知り、そこに自分を合わせていく必要があります。私の場合は、任国の文化が好きということは、現地の人をリスペクトし、いい関係を作っていく上ですごく助けになったと思っています。

日本語教育/ ブラジル	日系ボランティアを選んだ理由は何か。	海外で活動することに興味があり、また、ブラジルの音楽などの文化に興味があったため、ブラジルの日系社会青年海外協力隊を志望しました。 日系社会の協力隊と、他の海外協力隊との主な違いは、目的が主に現地日系人の社会文化の継承や維持を助けていく、というところにあることです。派遣先もインフラがすでに整っているところが多い印象です。 結果論ですが、私は派遣前、日本人の移民の歴史についてほとんど何も知りませんでした。南米にこんなにも多く、移民した方やその子孫がいて、文化を継承しようとしていることを知ることができたことは自分にとってとてもいい経験だったと思っています。
日本語教育/ ブラジル	今春、大学を卒業してホテルに勤めます。3～5年経験を積んで観光の職種に応募したいのですが、応募前に準備・勉強すべきことがあれば教えていただけますでしょうか。	まずは観光の職種の要請情報概要を見て、そこで求められていることを知ることが第一だと思います。
日本語教育/ ブラジル	自分の活動によって何か「現地の状況が変わった」「現地の人の意識が変わった」と感じていることはありますか。	自分がいた2年間の間に自分の配属先の学校は人員の面でも考え方の面でも大きく変わりましたが、自分の活動によって変わったとは思っていません。もともと現地の人に「こうしたい」という気持ちがあったから変わったのだと思うし、私はたまたま変化するタイミングに居合わせて、それを少しだけお手伝いしただけだと思います。
日本語教育/ ブラジル	派遣前に日本語教師のご経験は何年ほどありましたか？また、派遣後に再びブラジルへ戻らずに、国内の日本語学校での勤務をご希望された理由がありますか？	自分の場合は派遣前、日本語教師の経験は1年だけでした。私が応募した時は多くの資格条件は経験年数2年でした。合格するまで何度も応募するつもりで、2～3年かかると思っていたのですが、幸い1年の経験で合格することができました。ただその1年間は日本語学校でかなり多くの授業をして、経験を積んでいます。 私はブラジルで自分のいた学校の生徒や先生たちが本当に好きで、できればずっと居たかったです。協力隊の任期終了後、独力でブラジル仕事を見つけ、就労のビザを取得し、現地で再就職して生活していく、ということは簡単ではありません。
日本語教育/ ブラジル	もともと編集ライターをされていたとありますが、日本語を教える機会があったのでしょうか？	編集の仕事では日本語を教える機会はありませんでしたが、その仕事を退職後、日本語教師の資格をとり、国内の日本語学校で経験を積んでいました。
日本語教育/ ブラジル	ブラジルに強い思いがあったとお聞きしましたが、他の国の要請は全く希望せず、第一希望のみを考えていたということでしょうか。希望以外の国の要請も考えておられたのでしょうか。	私が応募した時は、応募書類に希望の要請を第三希望まで書くことができました。第三希望までブラジルの要請を書いていました。それでも、他の国に派遣となる可能性もある、とは考えていました。
土屋	現地でたくさんのお取組をなされていますが、何をするか派遣前に考えていたのですか？それとも現地でかえられたのでしょうか？	派遣前に活動内容を考えていました。 現地でカウンターパート（配属先の同僚）に相談しながら、他の隊員の活動も参考にしながら考えました。
土屋	派遣についてご家族は反対されませんでしたか？また、ご家族は派遣中のご様子にござされていませんか？	反対はされなかったが担当心配されました。携帯の無料アプリで定期的に通話や写真を送ったりしてコミュニケーションをとるようにしました。
土屋	応募前に語学資格など特別な準備をしたことはありましたか？	海外経験がほとんどなかったため、途上国へのスタディツアーに参加して短期間ではありましたが経験を積んでみました。
土屋	隊員を志望された理由を聞きたいです。	将来自分がやりたいことに向けて、海外生活や支援活動の経験が必要だと考えたため。
土屋	言語はどうされていたのですか？どのレベル必要なのですか？	初めて習う言語（アラビア語）だったので不安でしたが、訓練所の先生が何を勉強すればいいのか指導してくれて、あとはそれを実行するだけだったので当初の不安は解消できました。
土屋	仕事以外の時間は何をされましたか？	街の写真を撮ったり、外食に行ったりして、その国のことを知ろうとしました。
土屋	辛かったこと大変だったことはありますか？どう乗り越えましたか？	冊子「クロスロード」を参考にした。隊員の苦労話や問題解決をした話が載っているのととてもありがたかったです。
土屋	今春、大学を卒業してホテルに勤めます。3～5年経験を積んで観光の職種に応募したいのですが、応募前に準備・勉強すべきことがあれば教えていただけますでしょうか。	冊子「クロスロード」をぜひ読んでいただきたいと思います。隊員のいろいろな体験談を自分の事として考えると、準備すべきことのヒントになると思います。
土屋	自分の活動によって何か「現地の状況が変わった」「現地の人の意識が変わった」と感じていることはありますか。	日本の文化紹介のイベントを行いました。日本への理解を深めていただけたと思います。

佐藤	JICA海外協力隊の経験は、日本に戻ってから現職や転職にどのような影響がありましたか？良い影響、大変だったことなどあれば教えてください。	<p>青年とシニアの両方を経験しました。</p> <p>青年の時は、帰国後、大学の先生に挨拶に行くと、外資系の商社を紹介され就職しました。</p> <p>シニアの時は、前の職場の老人ホームに帰国挨拶に行った際に、お誘いを受け、同じ職場で仕事をすることになりました。</p> <p>※当時の制度は20～39歳を青年海外協力隊、40～69歳をシニア海外ボランティアという区分になっており、佐藤さんはこのどちらも経験されています。</p>
佐藤	現地の方の仕事に対する姿勢等、日本と違うと思います。戸惑われたこと、難しかったことはありますか？	<p>職種によって異なると思いますが、私が戸惑った事は、要請先の農業畜産局が家賃を払えず、ロックアウトされ、誰も入れなくなった事でした。</p> <p>難しかったことは、車の修理する工具が十分でなく、部品を購入するお金もなく部品交換が出来なく、完全な修理が出来なかった事です。農業機械が専門ですが、自動車修理が後半の主な仕事になりました。</p>
佐藤	新しいプロジェクト、新しいことを現地の職場で進める際に、大切にしていたことは何ですか？	<p>農業機械が専門ですが、頼まれた事は、専門以外でも全力でするようにしました。まずやってみると上手く行くことが多々ありました。例えば、PCの修理、3年動いていないクルマの修理やモーターボートエンジンの修理などを行いました。</p>
佐藤	現地でたくさんの取り組みをなされていますが、何をするか派遣前に考えていたのですか？それとも現地で考えられたのでしょうか？	<p>事前に特に考えておらず、現地で考えました。色々聞かれる事、頼まれる事などのなかに自分で出来る事がありますので、まずやってみる事を勧めます。</p>
佐藤	派遣についてご家族は反対されませんでしたか？また、ご家族は派遣中の間どのようにすごしていましたか？	<p>特に、反対はありませんでした。</p> <p>いまは、ライン、スカイプ、メッセージャー、などで派遣後も通信状況がよければ、家族と通信できます。</p>
佐藤	応募前に語学資格など特別な準備をしたことはありましたか？	<p>私は語学資格を取る準備をしませんでしたが、シニアでは海外赴任などを経験している人が多いようです。</p>
佐藤	現地ではどんな農業機械が使用されていましたか？	<p>耕運機、脱穀機をテスト的にインドネシア製のを輸入している状況であり、既に中国製の精米機が多く入っている状況でした。農畜産局には、OECDでインドネシア製の精米機が入っていました。</p>